

第23号

堺すずめ踊り

仲 囲 巢 連

な い す

陣 ENGINE

平成30年 3月 11日発行



【飛び梅伝説】

伝説によれば、道真を慕う庭木たちのうち、桜は、主人が遠い所へ去ってしまうことを知ってからというもの、悲しみのあまり、みるみるうちに葉を落とし、ついには枯れてしまったという。

しかし梅と松は、道真の後を追いたい気持ちをいよいよ強くして、空を飛んだ。ところが松は途中で力尽きて、摂津国八部郡板宿（現・兵庫県神戸市須磨区板宿）近くの後世「飛松岡」と呼びならわされる丘に降り立ち、この地に根を下ろした（これを飛松伝説と言う）。一方、ひとり残った梅だけは、見事その日一夜のうちに主人の暮らす大宰府まで飛んでゆき、その地に降り立ったという。

「天満宮の飛び梅伝説」から「ナイスの笑顔伝説」へ。夢を言葉に、夢を現実に

「川邊さんの思いを形にしたい。」

—昨年、納会で事務局がみなさんに述べた豊富です。

素晴らしい仲間は平成30年3月11日（日）大阪天満宮で、また一つの形を創り出しました。

ナイスの演舞は力がありました。ストーリーがあって、そして笑顔があふれていました。

そのために見ている人の心に「楽しさ」が残る演舞となったと思います。

天満宮の梅が道真の心を和ませたように、ナイスも見る人に楽しさを感じてもらえるようになってきました。川邊さんは「天満宮の奉納踊り」を大事にして来られました。その気持ちをナイスのメンバーが心を一つにして表現できた記念の演舞です。

3・11天満宮のナイスの踊りは、遠く離れた東北のみなさまにも伝わるでしょう。

これからも飛び梅の伝説のように、ナイスはこれから新しい伝説を作っていきますよ。

『感謝・笑顔・ありがとうございます』

自分の幸せを、そして周りの人の幸せを。



ナイスの笑顔が、被災地に届きますように

